

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|-------|
| 科目名 | 保健体育 | 分野 | 基礎分野 | 講師名 | 佐藤 真衣 |
| 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 1学年 | 履修学期 | 前期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 授業目的 | <p>年齢とともにスポーツ実施率が減少傾向にある。将来健康に生きていくためには、食事・運動・休養が大切になってくる。また、患者指導の際に、障害の発生と予防法、応急処置の仕方など知識として必要になってくる。運動を好きになること、日常に運動を取り入れること、患者指導の際に様々な知識を習得し、現場で活用できる技能の育成を目的とする。</p> |
| 授業内容 | <p>実技・・・体づくり運動、トレーニング、球技、ウォーミングアップ・クールダウン 座学・・・練習とトレーニングの原理・原則、効果的な動きのメカニズム、応急手当、心肺蘇生法、スポーツ外傷・障害とその原因・運動やスポーツでの安全確保</p> |
| 到達目標 | <p>運動の必要性、患者指導に必要な知識を理解し、実践できるようにする。 また、スポーツ外傷、障害とその原因を知り、グループワークを行いながら理解を深めていく。</p> |
| 成績評価 | <p>テストの成績と出席状況、授業態度を加味して評価する。</p> |
| 教科書 教材 | <p>プリント・実技に必要な道具を使用する。</p> |
| 備考 | <p>※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p> |
| 実務経験 | <p>【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無</p> |
| | <p>【内容】</p> |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|-------|
| 科目名 | 基礎運動学 | 分野 | 基礎分野 | 講師名 | 清水 茂幸 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 1学年 | 履修学期 | 後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 授業目的 | 人間の身体運動を解剖学をベースに学び、専門基礎分野につなげる。 |
| 授業内容 | <p>運動学の基礎 (関節と運動の力学、姿勢とその異常、運動路と感覚路、反射と随意運動)</p> <p>身体運動の機能 (脊柱・体幹の機能、肩甲帯・肩の機能、肘と前腕の機能、手と手指の機能、骨盤と股関節の機能、膝関節の機能、足の機能、正常歩行と異常歩行、顔面および頭部の筋) などの内容を学び、正常時の身体の機能について理解する。</p> |
| 到達目標 | <p>①身体の運動の正しいメカニズムを理解すること</p> <p>②基礎用語をしっかりと理解すること。</p> <p>③関節と筋肉の動き、負荷、重心の移動、身体のバランスについて理解すること。</p> |
| 成績評価 | 期末試験の結果を基に、出席状況、出席態度を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | リハビリテーション医学 (第4版) |
| 備考 | <p>※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項</p> <p>評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A (80点以上)、B (79～70点)、C (60～69点)、D (59点以下) の4段階で評価する。</p> |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|-----|------|------|------|-------|
| 科目名 | 英語 | 分野 | 基礎分野 | 講師名 | 関井 純子 |
| 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 1学年 | 履修学期 | 前期 |
| 授業方法 | 講義 | ・ | 実技 | ・ | 実習 |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 海外に目を向け、積極的に英語を学ぶ意欲を育てる |
| 授業内容 | 1 実践的な会話練習 2 ディクテーションや音読などの言語活動 |
| 到達目標 | 鍼灸師として必要な英会話ができる。 |
| 成績評価 | 授業内に行う筆記テストと定期テストの合計点数により評価する。 |
| 教科書 教材 | |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|--------|
| 科目名 | 生命科学 I | 分野 | 基礎分野 | 講師名 | 高島 浩一郎 |
| 単位数 | 6単位 | 履修学年 | 3学年 | 履修学期 | 前・後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 授業目的 | 身体の各部位の働きとしくみを深く理解させることを目指す。その理解を基に、治療家としての仕事、および、他の教科の学習が、向上することが期待される。 |
| 授業内容 | 基礎、血液、循環、呼吸、消化・代謝、体温、排泄、内分泌、生殖、神経、筋・運動、感覚、防御、調節のそれぞれについて、働きと仕組みを解説し、視聴覚教材を活用して理解を深め、問題を解くことにより定着させる。 |
| 到達目標 | 身体の各部分の働きと仕組みについて、患者さんが質問してきた際にわかりやすく説明できるまで深く理解することを究極の目標とするが、授業ではとりあえず、小学生の兄弟姉妹がいると仮定した場合に、彼らが理解できるように説明できるまで深く理解することを目標とする。 |
| 成績評価 | 試験の結果を主に、レポート点を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 生理学（医歯薬出版）を教科書とし、手製プリントを参考資料として配布する。 |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|-------|
| 科目名 | 生命科学Ⅱ | 分野 | 基礎分野 | 講師名 | 小野寺 悟 |
| 単位数 | 6単位 | 履修学年 | 3学年 | 履修学期 | 前期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 国家試験問題を解くための基礎力強化を目的とする。 |
| 授業内容 | 運動器系及び体表解剖学を除いた、解剖学総論・各論について教科書の精読・過去問解説・立体模型・ビデオ・毎回の小テストを介して行われる。 |
| 到達目標 | 過去問の答えの暗記ではなく、一つ一つの問題が何を要求しているかをよく理解し、適切な解答を自ら考えて導き出す基本的な解答能力を習得できる。 |
| 成績評価 | 定期試験の結果を主に、毎回の小テスト、出席状況、授業態度を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 解剖学 第2版 医歯薬出版 ほか毎回講義内容のプリントを配布する。 |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|------|
| 科目名 | コミュニケーション学 | 分野 | 基礎分野 | 講師名 | 藤井知弘 |
| 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 1学年 | 履修学期 | 後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 様々な学問分野と関わって学際的な研究分野であるコミュニケーション学の概要を理解し他上で、どのように正確で円滑なコミュニケーションを図ることができるかを探求し、実際の場面にあてはめ、その実際的な技能を高めることを目的とする。 |
| 授業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ○「これから求められる国語力」とは何か ○対話概念の理解 言語学的アプローチからの探求 ○人は相手の言葉をどのように理解するか 心理学的アプローチからの探求 ○コミュニケーションの得意、不得意はどのように起こりえるのか 社会学的アプローチからの探求 ○直接的な対話、メールや文書などのツールによる違い何か メディア論からの探求 ○実際場面におけるコミュニケーションの形成の実技（ロールプレイング） |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションあり方についての基礎的な理解を持つことができる。 ○様々な学際的なアプローチからコミュニケーションのあり方について考えることができる。 ○実際の場面における演習を通して円滑なコミュニケーションを図ることができるようにする。 |
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> ○毎回の出席状況と授業における学びに向かう姿勢を重視する ○毎回の授業におけるポートフォリオの記述、提出を評価対象とする ○演習における実技評価を行う ○学期終了時に各自の問題意識による課題レポートの作成を期末試験対象とする。 |
| 教科書 教材 | 特になし |
| 備考 | <p>※評価について</p> <p>上記、成績評価に照らして</p> <p>出席点2割 ポートフォリオ2割 実技評価3割 レポート3割 とする</p> |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | <p>【内容】</p> <p>小学校教員として12年 大学におけるTAして3年</p> <p>大学教員として20年の国語科教育学についての指導経験</p> <p>看護学校3校において、論理学、論理的思考、国語表現の指導担当を有する</p> |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|--------|------|-------|
| 科目名 | 解剖学 I | 分野 | 専門基礎分野 | 講師名 | 設楽 雄介 |
| 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 1 学年 | 履修学期 | 前期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 人体の構成、骨格、筋肉と支配神経、関連する脈管系の基本構造を理解し、臨床疾患を理解する基礎形成を目指す。 |
| 授業内容 | 教科書内容に基づき講義を行い、不足分は別途資料を配布する。 人体の構成 骨格系 1. 骨格系総論 2. 脊柱 3. 胸郭 4. 上肢の骨格 5. 下肢の骨格 6. 頭蓋骨 7. 関節 筋系 1. 筋系総論 2. 体幹の筋 3. 上肢・下肢の筋 4. 頭頸部の筋 |
| 到達目標 | 人体の構成、骨格、筋肉と支配神経、関連する脈管系の基本構造を説明することができる。 |
| 成績評価 | 試験の結果を主に、出席状況、授業態度、課題、予習復習状況等を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 配付資料、教科書（解剖生理）、骨模型、筋模型など |
| 備考 | 評価について：試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|--------|------|-------|
| 科目名 | 解剖学Ⅲ | 分野 | 専門基礎分野 | 講師名 | 設楽 雄介 |
| 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 2学年 | 履修学期 | 前期/後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 授業目的 | <p>泌尿器・生殖器（発生）・神経系・感覚器について構造と機能の習得を目的とする。 運動器系の復習も併せて行う。 これらの基本構造から、臨床疾患を理解する基礎形成を目指す。</p> |
| 授業内容 | <p>教科書の以下の内容に基づき講義を行い、不足分は別途資料を配布する。</p> <p>泌尿器・生殖器（発生）・神経系・感覚器・運動器</p> |
| 到達目標 | <p>これらの基本構造を説明することができる。</p> |
| 成績評価 | <p>試験の結果を主に、出席状況、授業態度、課題、予習復習状況等を加味して評価する。</p> |
| 教科書 教材 | <p>配付資料、教科書（解剖生理）など</p> |
| 備考 | <p>評価について：試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p> |
| 実務経験 | <p>【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無</p> |
| | <p>【内容】</p> |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|--------|------|-------|
| 科目名 | 解剖学Ⅳ | 分野 | 専門基礎分野 | 講師名 | 柿坂 昌美 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 3学年 | 履修学期 | 前期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 人体の構造を再度確認・理解し、国家試験に対応できる知識を身につけ、深める。 |
| 授業内容 | 1・2年次の総復習。 運動器系全般、骨格系・筋系 これらに付随する神経系、脈管系 |
| 到達目標 | 各章の重要ポイントを国家試験に対応した演習問題を解くことができる。 |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 教科書 教材 | 解剖学（第2版）、まとめプリント、演習問題プリント |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|--------|------|-------|
| 科目名 | 生理学 I | 分野 | 専門基礎分野 | 講師名 | 佐々木香奈 |
| 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 1 学年 | 履修学期 | 前期 後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 人体を構成する各器官系の働きや仕組みを理解し、正常な人体機能（生命活動）の理解を深めることを目的とする。 |
| 授業内容 | 生理学の各章のうち、消化と吸収、代謝、体温、内分泌、生殖・成長と老化について学ぶ。 |
| 到達目標 | 人体の各機能について基礎的知識を習得し、主要な機能について説明できる。 |
| 成績評価 | 定期試験の成績を最重視し評価する。 |
| 教科書 教材 | 生理学、作成したプリント |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|--------|------|------|
| 科目名 | 生理学Ⅱ | 分野 | 専門基礎分野 | 講師名 | 加納 舞 |
| 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 1学年 | 履修学期 | 前・後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 人体を構成する各器官系の働きや仕組みを理解し、正常な人体機能（生命活動）の理解を深めることを目的とする。 |
| 授業内容 | 生理学の基礎（細胞、体液など）、循環（血液、心臓など）、呼吸（呼吸運動、二酸化炭素の運搬）、排泄（尿の生成、排尿など）、生体の防御機能（免疫反応など）。 |
| 到達目標 | 人体の各機能について基礎的知識を習得し、主要な機能について説明できる。 |
| 成績評価 | 中間・期末試験の結果を主に、出席状況、授業態度、課題を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 生理学（医歯薬出版）。適宜プリントを配布する。 |
| 備考 | ※評価についての注記，必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|--------|------|-------|
| 科目名 | 生理学Ⅲ | 分野 | 専門基礎分野 | 講師名 | 三條敏也 |
| 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 1学年 | 履修学期 | 前期・後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 授業目的 | 生理学の各章のうち、神経系（脳神経、自律神経神経など）、筋肉（骨格筋線維、筋小胞体など）、運動調節（運動単位、筋紡錘、下行性伝導路など）、感覚（体性感覚、内臓感覚、上行性伝導路、特殊感覚）、生体防御（細胞性免疫、液性免疫など）、及びバイオリズム（日内リズム）。 |
| 授業内容 | 生理学の各章のうち、循環器系、腎・泌尿器系、消化器系、及び栄養と代謝。 |
| 到達目標 | 人体の各機能について基礎的知識を習得し、主要な機能について説明できる。 |
| 成績評価 | 試験結果に基づき、出席状況、課題レポート、及び授業態度等を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 生理学（改訂4版、彼末一之編、全国柔道整復学校協会監修、南江堂）を使用する他、プリントを配布する。 |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|--------|------|------|
| 科目名 | 生理学Ⅳ | 分野 | 専門基礎分野 | 講師名 | 加納 舞 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 3学年 | 履修学期 | 前期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 人体を構成する各器官系の働きや仕組みを理解し、正常な人体機能（生命活動）の理解を深めることを目的とする。 |
| 授業内容 | 神経、筋、運動、感覚、生体の防御機能（免疫反応など）。 |
| 到達目標 | 人体の各機能について基礎的知識を習得し、主要な機能について説明できる。 |
| 成績評価 | 期末試験の結果を主に、出席状況、授業態度、課題を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 生理学（医歯薬出版）。適宜プリントを配布する。 |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|--------|------|-------|
| 科目名 | 病理学 | 分野 | 専門基礎分野 | 講師名 | 増田由紀子 |
| 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 2学年 | 履修学期 | 前期・後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 授業目的 | 疾病の概念を明らかにするため疾病の原因・各種の疾患の基礎知識を習得させる。 |
| 授業内容 | 教科書をわかりやすく要約したプリントを使用して解説する。出来るだけ板書して図解するよう努める。→続いて要点のまとめプリント（書き込み式）を課題として行わせる。授業で答え合わせをする。→その章のまとめとして演習問題（国試の傾向に沿った実践練習）を課題として行わせる。授業で答え合わせをする。 |
| 到達目標 | 必要な知識をしっかりと記憶し、応用できる。 国家試験レベルの演習問題が解ける。 |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 教科書 教材 | 病理学概論（医歯薬出版） オリジナルプリント |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|--------|------|-------|
| 科目名 | 臨床医学総論 I | 分野 | 専門基礎分野 | 講師名 | 佐々木香奈 |
| 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 1 学年 | 履修学期 | 前期 後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 医療面接技法、診察法、症候を把握し、患者を理解し、正しく診断して適切な医療行為を行なえるようにする。 |
| 授業内容 | 医療面接の進め方や方法から始まり、生命徴候、全身診察、局所診察、神経系診察、運動系診察、臨床検査について鍼灸行為を行なっていく上で必要な技能を身に付ける。 |
| 到達目標 | 疾病の判断、鍼灸治療の適切・不適応の判断を行なえる知識を身に付ける。 |
| 成績評価 | 定期試験の成績を最重視し評価する。 |
| 教科書 教材 | 臨床医学総論、作成したプリント |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|--------|------|-------|
| 科目名 | 臨床医学総論Ⅱ | 分野 | 専門基礎分野 | 講師名 | 佐々木香奈 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 2学年 | 履修学期 | 前期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 医療面接技法、診察法、症候を把握し、患者を理解し、正しく診断して適切な医療行為を行なえるようにする。 |
| 授業内容 | 医療面接の進め方や方法から始まり、生命徴候、全身診察、局所診察、神経系診察、運動系診察、臨床検査について鍼灸行為を行なっていく上で必要な技能を身に付ける。 |
| 到達目標 | 疾病の判断、鍼灸治療の適切・不適応の判断を行なえる知識を身に付ける。 |
| 成績評価 | 定期試験の成績を最重視して評価する。 |
| 教科書 教材 | 臨床医学総論、作成したプリント |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|--------|------|-------|
| 科目名 | 臨床医学各論 I | 分野 | 専門基礎分野 | 講師名 | 佐々木香奈 |
| 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 2学年 | 履修学期 | 前期 後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 鍼灸臨床の現場で見られる疾患を中心に、原因、疫学傾向、症状、治療、予防等を現代医学的見地から総合的に理解することを目的とする。 |
| 授業内容 | 臨床医学各論の各章より、感染症、整形外科疾患、血液・造血疾患、小児疾患、外科疾患、麻酔、婦人科疾患、皮膚疾患、眼科・耳鼻科疾患、精神・心療内科疾患について学ぶ。 |
| 到達目標 | 代表的疾患に関する知識を身に着け、患者の診察や治療の際の注意事項を理解し、適切に対処できるようにする。 |
| 成績評価 | 定期試験の成績を最重視して評価する。 |
| 教科書 教材 | 臨床医学各論、作成したプリント |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|--------|------|------|
| 科目名 | 臨床医学各論Ⅱ | 分野 | 専門基礎分野 | 講師名 | 加納 舞 |
| 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 2学年 | 履修学期 | 前・後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 鍼灸臨床の現場で見られる疾患を中心に、原因、疫学傾向、症状、治療、予防等を現代医学的見地から総合的に理解することを目的とする。 |
| 授業内容 | 消化器疾患、肝・胆・膵疾患、内分泌疾患、代謝疾患、膠原病・リウマチ疾患、血液疾患 |
| 到達目標 | 代表的な疾患の原因、疫学傾向、症状、治療、予防等について総合的に理解することができる。 |
| 成績評価 | 中間・期末試験の結果を主に、出席状況、授業態度、課題を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 臨床医学各論（医歯薬出版）. 適宜プリントを配布する。 |
| 備考 | ※評価についての注記，必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|--------|------|------|
| 科目名 | 臨床医学各論Ⅲ | 分野 | 専門基礎分野 | 講師名 | 加納 舞 |
| 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 2学年 | 履修学期 | 前・後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 鍼灸臨床の現場で見られる疾患を中心に、原因、疫学傾向、症状、治療、予防等を現代医学的見地から総合的に理解することを目的とする。 |
| 授業内容 | 呼吸器疾患、循環器疾患、腎・尿器疾患、神経疾患 |
| 到達目標 | 代表的な疾患の原因、疫学傾向、症状、治療、予防等について総合的に理解することができる。 |
| 成績評価 | 中間・期末試験の結果を主に、出席状況、授業態度、課題を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 臨床医学各論（医歯薬出版）. 適宜プリントを配布する。 |
| 備考 | ※評価についての注記，必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|-----------------|------|--------|------|-------|
| 科目名 | リハビリテーション 医学 | 分野 | 専門基礎分野 | 講師名 | 佐々木香奈 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 2学年 | 履修学期 | 後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 授業目的 | 医療的、教育的、社会的、職業的分野からリハビリとはどういうものを学ぶ。 総論的分野から入り、後半は各疾患に対するリハビリを学ぶ。 |
| 授業内容 | リハビリ医学の総論としてリハビリの概要障害の種類、障害の捉え方と分類、四肢の計測とROM、MMTと運動の協調性テスト、ADL評価・廃用症候群、小児運動発達テスト、心理テスト、理学療法、作業療法、装具と杖歩行について学ぶ。 各論として各疾患のリハビリの内容、進め方を学ぶ。 |
| 到達目標 | リハビリが必要な患者に対し適切な評価、リハビリの指導が行えるようになってもらう。 |
| 成績評価 | 定期試験の成績を最重視して評価する。 |
| 教科書 教材 | リハビリテーション医学、作成したプリント |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|--------|------|-------|
| 科目名 | 衛生学・公衆衛生 | 分野 | 専門基礎分野 | 講師名 | 田沢光正 |
| 単位数 | 3単位 | 履修学年 | 1学年 | 履修学期 | 前期・後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 授業目的 | 人間集団を対象とする生態系を含めた健康や疾病について、その予防や健康増進について理解することを目的とする。 |
| 授業内容 | 主に国・地方公共団体などの責任によって進められる保健行政や衛生統計・健康指標、公衆衛生の概念、歴史、環境保全、感染症、産業保健・労働衛生など、集団における健康状態とそれに関連する要因の分布を明らかにする疫学的手法を学び、健康の保持・増進のための基本的知識と方法論について講義を通して習得する。 |
| 到達目標 | 医療人としての衛生学・公衆衛生学の基本的知識と方法論を習得し、医療現場において患者・利用者および他の医療従事者とコミュニケーションが十分にとれる。 |
| 成績評価 | 定期試験の成績により評価する。 |
| 教科書 教材 | 衛生学・公衆衛生学 第2版 医歯薬出版 講師が配布する「まとめ」と「練習問題」 |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|--------|------|-------|
| 科目名 | 医療概論 | 分野 | 専門基礎分野 | 講師名 | 佐々木香奈 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 1学年 | 履修学期 | 前期半分 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 授業目的 | 医学史は除き、現代の医療制度（医療従事者、医療施設、国民医療費、医療保険介護保険）等学び、医療従事者としての医の倫理を学ぶ。 |
| 授業内容 | 前回授業内容からの小テストを始め、各章ごとに教科書を中心に作成したプリントで講義をし、最後に確認、理解、暗記の時間を設けて最後の口頭試問で確認をする。 |
| 到達目標 | <p>施術者としての胃の倫理を理解する。</p> <p>現代の医療制度（医療従事者、医療施設、国民医療費、医療保険介護保険）等について理解する。</p> |
| 成績評価 | 定期試験の成績を最重視して評価する。 |
| 教科書 教材 | 医療概論、社会あはき学、作成したプリント |
| 備考 | <p>※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項</p> <p>評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p> |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|------------------|------|--------|------|------|
| 科目名 | 社会保障制度 及び職業倫理 | 分野 | 専門基礎分野 | 講師名 | 加納 舞 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 3学年 | 履修学期 | 後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 授業目的 | 世界と我が国の社会保障制度を理解し、はり師きゅう師に必要な実務を習得することを目的とする。 医療人及びはり師きゅう師としての社会的役割を理解し、職業倫理を身に付けることを目的とする。 |
| 授業内容 | 世界及び日本における社会保障制度の歴史、社会保障制度の概念、対象、種類（法律、サービス等）について。 地域包括ケアシステムについて理解し、はり師きゅう師の役割を考える。 我が国の医療・福祉現場における問題点とはり師きゅう師の役割について。 医療人およびはり師きゅう師としての心得、職業倫理について、グループワーク中心に、様々な考え方・幅広い視野を持てるよう学びを深める。 |
| 到達目標 | 我が国の社会保障制度について説明できる。 はり師きゅう師として、我が国の福祉介護サービスにおける役割について説明できる。 医療人およびはり師きゅう師の職業倫理について自分の意見を述べるができる。 |
| 成績評価 | 試験の結果を主に、出席状況、授業態度、課題を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 社会あはき学、関係法規（医道の日本社）。適宜プリントを配布する。 |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|-------|
| 科目名 | 東洋医学概論 I | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 土屋 幸久 |
| 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 1 学年 | 履修学期 | 前期・後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 東洋医学の特徴（陰陽学説、五行学説、気血津液）を理解することを目的とする。 |
| 授業内容 | 教科書内容に基づき講義を行い、不足分は別途資料を配布する。 1章 東洋医学の特徴 3章 東洋医学の思想（陰陽学説・五行学説） 2章 生理と病理（気・血・津液） |
| 到達目標 | 東洋医学の特徴を理解し、説明することができる。 陰陽学説、五行学説を理解し、説明することができる。 気血津液の特徴と働きを理解し、説明することができる。 |
| 成績評価 | 試験の結果を主に、出席状況、授業態度等を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 東洋医学概論 |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 はり師・きゅう師として7年の実務経験あり。 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|-------|
| 科目名 | 東洋医学概論Ⅱ | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 土屋 幸久 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 1学年 | 履修学期 | 後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 東洋医学の生理と病理を理解し、東洋医学的な考えのもと生体物質・臓腑・経絡の特徴を把握することを目的とする。 |
| 授業内容 | 教科書内容に基づき講義を行い、不足分は別途資料を配布する。 2章 生理と病理 ・生体物質の特徴 ・臓腑の特徴（蔵象） ・経絡の病理、病証 |
| 到達目標 | 東洋医学の生理と病理を理解し、東洋医学的な考えのもと生体物質・臓腑・経絡の特徴を説明できる。 |
| 成績評価 | 試験の結果を主に、出席状況、授業態度等を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 東洋医学概論 |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 はり師・きゅう師として7年の実務経験あり。 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|-------|
| 科目名 | 東洋医学概論Ⅲ | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 土屋 幸久 |
| 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 2学年 | 履修学期 | 前期・後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 東洋医学の生理と病理を復習し、四診によって証を決定し治法を導きだせるようになることを目的とする。東洋医学の用語を確認し、病証の分類方法、特徴を把握できることを目的とする。 |
| 授業内容 | 教科書内容に基づき講義を行い、不足分は別途資料を配布する。 4章 四診 5章 弁証論治 |
| 到達目標 | 四診について理解し、東洋医学的な病証の分類を行うことができる。 証を決定し、それに対する治法を説明することができる。 |
| 成績評価 | 試験の結果を主に、出席状況、授業態度等を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論 |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 はり師・きゅう師として7年の実務経験あり。 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|-------|
| 科目名 | 経絡経穴概論 I | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 郡山秀一 |
| 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 1学年 | 履修学期 | 前期・後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 鍼灸治療の基本となる経絡経穴について、各経絡所属の経穴の名称および部位について学習し理解することを目的とする。 |
| 授業内容 | 経絡経穴の基礎、解剖学的肢位と方向に関する用語、体表指標、十四経脈とその経穴、取穴確認について、教科書をもとにプリントを用いて講義・演習を行う。 |
| 到達目標 | 鍼灸治療の基本となる経絡経穴について、その意義と経絡流注および経穴の部位と作用、各経絡所属の経穴の名称および部位について説明することができる。 |
| 成績評価 | 客観試験（筆記試験）の結果を主に、出席状況、授業態度を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 配付資料、教科書「経絡経穴概論」（医道の日本社） |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師として9年の実務経験あり。 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|------|
| 科目名 | 経絡経穴概論Ⅱ | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 郡山秀一 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 1学年 | 履修学期 | 後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 授業目的 | 鍼灸治療の基本となる経絡経穴について意義や効果を理解し、各経絡所属の経穴の名称および部位について解剖学的特徴も含め学習し理解することを目的とする。 |
| 授業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・解剖的な部位の把握と経穴の取穴方法 ・経穴の臨床上における意義 |
| 到達目標 | 経絡経穴概論Ⅰで学習した経穴の意義を理解し、経穴の部位や経穴付近の解剖を理解しつつ、正しく取穴ができる。 |
| 成績評価 | 客観試験（実技試験）の結果を主に、出席状況、授業態度を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 配付資料、教科書「経絡経穴概論」（医道の日本社） |
| 備考 | <p>※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項</p> <p>評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p> |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | <p>【内容】</p> <p>あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師として9年の実務経験あり。</p> |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|------|
| 科目名 | 経絡経穴概論Ⅲ | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 郡山秀一 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 2学年 | 履修学期 | 前期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 授業目的 | 1年次に修得した経穴について、鍼灸治療の基本となる経絡経穴の意義と経絡流注および経穴の部位と作用、各経絡相続の経穴の名称および部位について支配神経や筋肉を含めて学習する。 |
| 授業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 正経十二経脈 ・ 奇経八脈 ・ 奇穴、特定穴 ・ 取穴確認 |
| 到達目標 | 経穴の意義を理解し、臨床上応用することができる |
| 成績評価 | 客観試験（筆記試験）の結果を主に、出席状況、授業態度を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 配付資料、教科書「経絡経穴概論」（医道の日本社） |
| 備考 | <p>※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項</p> <p>評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p> |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | <p>【内容】</p> <p>あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師として9年の実務経験あり。</p> |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|------|
| 科目名 | 経絡経穴概論Ⅳ | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 設楽雄介 |
| 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 3学年 | 履修学期 | 通年 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 授業目的 | <p>①経穴主要部分を復習し、国家試験 経絡経穴概論に頻出する基本問題正解を目指す。</p> <p>②国家試験で問われる総合問題／臨床的問題の基礎対応力涵養を目指す。</p> |
| 授業内容 | <p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部位ごとに取穴に必要な筋骨指標を復習、神経脈管との関連性、要穴、横並び等を確認する。 ・ 総合／臨床的問題を解き、別の表現に慣れ、数段階の思考を経て正答を導く問題を知る。 <p><基本的進行、授業構成></p> <p>a. 前週授業の復習問題（総合問題／臨床的問題等を1問程度含む）</p> <p>b. 本日のテーマ（詳細は講義録をご参照下さい）</p> |
| 到達目標 | <p>①国家試験 経絡経穴概論問題を6割正解できる。</p> <p>②国家試験 総合問題／臨床的問題への基礎的な対応力をつける。</p> |
| 成績評価 | 試験の結果を主に、出席状況、授業態度、課題、予習復習状況等を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 教科書（経絡経穴概論、解剖学を中心とする） プリントを配布する |
| 備考 | 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 |
| | 【内容】 はり師・きゅう師として14年の実務経験あり。 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|------|
| 科目名 | はりきゅう理論 I | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 加納 舞 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 2学年 | 履修学期 | 後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 授業目的 | <p>鍼術灸術の基礎知識，術式，臨床応用，リスク管理について正しく理解することを目的とする。</p> <p>鍼灸治療の治効機序・治効理論・関連学説について生理学的な知識と結びつけ理解することを目的とする。</p> |
| 授業内容 | <p>鍼術灸術の基礎知識，術式，臨床応用，リスク管理，鍼灸治療の治効機序・治効理論・関連学説について，教科書をもとにプリントを用いて講義を行う。</p> |
| 到達目標 | <p>鍼術・灸術の基礎知識，術式，臨床応用，リスク管理について正しく理解し説明することができる。</p> <p>鍼灸の治効機序・治効理論・関連学説について説明することができる。</p> |
| 成績評価 | <p>中間・期末試験の結果を主に，出席状況，授業態度，課題を加味して評価する。</p> |
| 教科書 教材 | <p>はりきゅう理論（医歯薬出版）．適宜プリントを配布する。</p> |
| 備考 | <p>※評価についての注記，必要な予習等についての特記事項</p> <p>評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p> |
| 実務経験 | <p>【担当教員の実務経験の有無】</p> <p>有 ・ 無</p> |
| | <p>【内容】</p> <p>はり師・きゅう師として7年の実務経験あり。</p> |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|------------|
| 科目名 | はりきゅう理論Ⅱ | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 加納 舞／郡山 秀一 |
| 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 2学年 | 履修学期 | 前・後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 授業目的 | <p>鍼術灸術の基礎知識，術式，臨床応用，リスク管理について正しく理解し，国家試験レベルの知識を習得することを目的とする。</p> <p>鍼灸治療の治効機序・治効理論・関連学説について生理学的な知識と結びつけ理解し，国家試験レベルの知識を習得することを目的とする。</p> |
| 授業内容 | <p>鍼術灸術の基礎知識，術式，臨床応用，リスク管理，鍼灸治療の治効機序・治効理論・関連学説について，教科書をもとにプリントを用いて講義・演習を行う。</p> |
| 到達目標 | <p>鍼術・灸術の基礎知識，術式，臨床応用，リスク管理について正しく理解し説明することができる。</p> <p>鍼灸の治効機序・治効理論・関連学説について説明することができる。</p> |
| 成績評価 | <p>中間・期末試験の結果を主に，出席状況，授業態度，課題を加味して評価する。</p> |
| 教科書 教材 | <p>はりきゅう理論（医歯薬出版）．適宜プリントを配布する。</p> |
| 備考 | <p>※評価についての注記，必要な予習等についての特記事項</p> <p>評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p> |
| 実務経験 | <p>【担当教員の実務経験の有無】</p> <p style="text-align: center;">有 ・ 無</p> |
| | <p>【内容】</p> <p>加納 舞・・・はり師・きゅう師として7年の実務経験あり。</p> <p>郡山 秀一・・・あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師として9年の実務経験あり。</p> |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|-------|
| 科目名 | 東洋医学臨床論 I | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 土屋幸久 |
| 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 2学年 | 履修学期 | 前期・後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 各疾患について現代医学的・東洋医学的に病態を把握し、医療面接から施術を行うための治療方針の確定ができることを目的とする。 |
| 授業内容 | 第1章 総論 第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候 第3節 全身の症候 第4節 その他の症候 第6節 小児特有の症候 第7節 老年特有の症候 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 各疾患に対し現代医学的病態把握、東洋医学的病態把握ができる。 病態把握を行い、治療方針を決定できる。 |
| 成績評価 | 試験の結果を主に、出席状況、授業態度を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論 |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 はり師・きゅう師として7年の実務経験あり。 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|------|
| 科目名 | 東洋医学臨床論Ⅱ | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 土屋幸久 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 2学年 | 履修学期 | 後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 授業目的 | 各疾患について現代医学的・東洋医学的に病態を把握し、医療面接から施術を行うための治療方針の確定ができることを目的とする。 |
| 授業内容 | 第2章 第1節 疼痛 第5節 女性特有の症候 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 各疾患に対し現代医学的病態把握、東洋医学的病態把握ができる。 病態把握を行い、治療方針を決定できる。 |
| 成績評価 | 試験の結果を主に、出席状況、授業態度等を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論 |
| 備考 | <p>※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項</p> <p>評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p> |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | <p>【内容】</p> <p>はり師・きゅう師として7年の実務経験あり。</p> |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|-------|
| 科目名 | 東洋医学臨床論Ⅲ | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 土屋幸久 |
| 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 3学年 | 履修学期 | 前期・後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 授業目的 | はり師・きゅう師の国家試験合格に向け、東洋医学臨床論の総復習を行う。 各疾患について現代医学的・東洋医学的に病態を把握し、医療面接から施術を行うための治療方針の確定ができることを目的とする。 |
| 授業内容 | 国家試験出題基準（2020年版）の内容をもとに、国家試験合格に必要な基礎の総復習を行う。 第1章 総論 第2章 各論 各症候について |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 各疾患に対し現代医学的病態把握、東洋医学的病態把握ができる。 病態把握を行い、治療方針を決定できる。 |
| 成績評価 | 試験の結果を主に、出席状況、授業態度を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論 |
| 備考 | <p>※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項</p> <p>評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p> |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | <p>【内容】</p> <p>はり師・きゅう師として7年の実務経験あり。</p> |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|------|
| 科目名 | 東洋医学臨床論IV | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 郡山秀一 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 3学年 | 履修学期 | 後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 東洋医学概論、経絡経穴概論などで学んだ考え方や知識を統合化し、主要症候についてその診察の仕方とポイント、鑑別のポイント、治療方針の定め方や選穴配穴と処方決定等について学習を行うことを目的とする。 |
| 授業内容 | 治療各論（運動器を中心に）について、教科書をもとにプリントを用いて講義・演習を行う。 |
| 到達目標 | 1. 自分で患者情報を分析し、証の鑑別を行いながら証の決定ができるとともに、その根拠について説明することができる 2. 自分で治療方針を立て、それにもとづいて処方を作成し、その選穴、治療目的について説明することができる。 |
| 成績評価 | 客観試験（筆記試験）の結果を主に、出席状況、授業態度を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 配付資料、教科書「東洋医学臨床論」「新版 東洋医学概論」（医道の日本社） |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師として9年の実務経験あり。 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|------|
| 科目名 | 病態生理学 | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 加納 舞 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 3学年 | 履修学期 | 後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 患者が示す病状や所見から、機能低下をきたす仕組み、原因を考察できることを目的とする。 |
| 授業内容 | 臨床で観察される循環，呼吸，消化器，整形外科疾患の病状を例に発生機序と身体変化を検討する。 適宜，問題演習を行う。 |
| 到達目標 | 患者が示す病状や所見から、機能低下をきたす仕組み、原因を考察し、説明できる。 |
| 成績評価 | 中間・期末試験の結果を主に、出席状況、授業態度、課題を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 臨床医学各論（医道の日本社）。適宜プリントを配布する。 |
| 備考 | ※評価についての注記，必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 はり師・きゅう師として7年の実務経験あり。 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|------|
| 科目名 | あはき適応の判断 | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 加納 舞 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 3学年 | 履修学期 | 後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 臨床で対象となる疾患について業務範囲内・外を適切に判断し、対応できることを目的とする。 |
| 授業内容 | 講義および演習を中心に実施する。 臨床で観察される病状を例に病態把握を行い、対応方法の演習を行う。 |
| 到達目標 | 臨床で対象となる疾患について業務範囲内・外を適切に判断し、対応できる。 |
| 成績評価 | 中間・期末試験の結果を主に、出席状況、授業態度、課題を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 臨床医学各論（医歯薬出版）。適宜プリントを配布する。 |
| 備考 | ※評価についての注記，必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 はり師・きゅう師として7年の実務経験あり。 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|-------|
| 科目名 | 関係法規 I | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 佐々木香奈 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 2学年 | 履修学期 | 後期前半 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 法とは何かを理解し、はり師きゅう師の関係法規、患者の権利、リスク管理、医療事故と医療過誤について理解させることを目的とする。 |
| 授業内容 | あはき師に関する法律、その他の医事法規について学ぶ。 |
| 到達目標 | はり師きゅう師に必要な法規を理解し、適切な運用ができるレベルに達する。 |
| 成績評価 | 定期試験の成績を最重視して評価する。 |
| 教科書 教材 | 関係法規、医療概論、作成したプリント |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 はり師・きゅう師として23年の実務経験あり。 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|-------|
| 科目名 | 関係法規Ⅱ | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 佐々木香奈 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 3学年 | 履修学期 | 後期後半 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 法とは何かを理解し、はり師きゅう師の関係法規、患者の権利、リスク管理、医療事故と医療過誤について理解させることを目的とする。 |
| 授業内容 | あはき師に関する法律、その他の医事法規について学ぶ。 国家試験に対応できるよう問題演習をメインで行なう。 |
| 到達目標 | はり師きゅう師に必要な法規を理解し、適切な運用ができるレベルに達する。 国家試験に対応できる力を身に付ける。 |
| 成績評価 | 定期試験の成績を最重視して評価する。 |
| 教科書 教材 | 関係法規、医療概論、作成したプリント |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 はり師・きゅう師として23年の実務経験あり。 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|---------------------|------|------|------|------|
| 科目名 | はり実技 | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 郡山秀一 |
| 単位数 | 3単位 | 履修学年 | 1学年 | 履修学期 | 前・後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 鍼実技に関する基本的な技術と知識を修得し、施術を安全かつ確実に行える能力・態度を身につけることを目標とする。特に1年次においては、2年次における人体各部への刺鍼の修得にも十分対応できるような基本を確実に習得することが重要である。また、臨床家として患者を治療することも常に念頭におき、臨床家としてふさわしい態度・姿勢を身につけるよう留意する必要がある。 |
| 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 鍼灸の基本知識 2. 刺鍼への導入 3. 刺鍼の基礎 4. 四肢に対しての刺鍼 5. 身体各部への刺鍼 6. 各種鍼法 |
| 到達目標 | <p>はり実技を行うに当たって必要な基礎知識を習得し、刺鍼に必要な基本的な手の動き（押手と刺手）を身につける。刺鍼の基本的な方法を確認できる。</p> <p>管鍼法で直刺と斜刺を適切に行うことができる。</p> <p>各種鍼法が臨床においてどのように応用されているかを理解し、目的に応じ安全・適切に行うことができる。</p> |
| 成績評価 | 客観試験（実技試験）の結果を主に、出席状況、授業態度を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 配付資料、教科書「はりきゅう実技」（医道の日本社） |
| 備考 | <p>※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項</p> <p>評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p> |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | <p>【内容】</p> <p>あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師として9年の実務経験あり。</p> |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|-------|
| 科目名 | きゅう実技 | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 設楽雄介 |
| 単位数 | 3単位 | 履修学年 | 1学年 | 履修学期 | 前期・後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | <p>目的① 灸の取り扱いを通し、医療人としての安全意識を身につけられる。</p> <p>目的② 経穴を取穴し、安全に連続施灸／二点三壮施灸できる技術と知識を身につける。</p> |
| 授業内容 | <p>内容① 灸の歴史、材料、製法、効果の基礎、安全な取り扱い等の知識を学ぶ。</p> <p>内容② 経穴の部位を教科書で確認し、関連する筋、腱、神経等を把握し取穴練習を反復する。 主な対象経穴：失眠、湧泉、解溪、足三里、漏谷、地機、飛揚、跗陽、崑崙、太溪、三陰交、陰陵泉、上巨虚、条口、豊隆、合陽、承筋、承山、腎兪、気海兪、大腸兪等</p> <p>内容③ 点灸用紙に米粒大/半米粒大の艾炷を1分10壮置く及び点火練習を反復する。</p> <p>内容④ 人体への連続施灸及び二点三壮施灸練習を反復する。</p> <p>内容⑤ 実技デモンストレーション後、各ペアで実技練習、巡回による指導を行う。</p> |
| 到達目標 | <p>目標① 灸を取り扱う上での衛生、安全を含めた基礎知識を習得、説明できる。</p> <p>目標② 施術経穴の部位を説明し、患者に姿勢誘導を行い、正確に取穴できる。</p> <p>目標③ 米粒大、半米粒大の艾炷を作ることができる。</p> <p>目標④ 半米粒大艾炷を1分で10壮並べて作り、点火することができる。</p> <p>目標⑤ 米粒大艾炷を1分で一点三壮八分灸実施することができる。</p> <p>目標⑥ 米粒大艾炷を5分で二点三壮八分灸実施することができる。</p> |
| 成績評価 | <p>採点① 上記目標について、段階を設けて試験を実施する。 但し、目標①は授業内で用紙による小テスト、口頭試問も実施する。</p> <p>採点② 経絡経穴の暗唱試験を実施する。</p> <p>採点③ 点灸用紙による燃焼課題を課す。</p> |
| 教科書 教材 | <p>はりきゅう実技、はりきゅう理論、経絡経穴概論、解剖生理 各教科書 他、適宜プリントを配布する。</p> |
| 備考 | <p>※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A (80点以上)、B (79～70点)、C (60～69点)、D (59点以下) の4段階で評価する。</p> |
| 実務経験 | <p>【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無</p> |
| | <p>【内容】 はり師・きゅう師として14年の実務経験あり。</p> |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|-------|
| 科目名 | はりきゅう実技 I | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 土屋 幸久 |
| 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 2学年 | 履修学期 | 前期・後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 鍼灸の技術をもって各疾患の治療方針、治療方法を学び、治療ができるようになる。 |
| 授業内容 | 東洋医学臨床論で学んだ症例について、医療面接から病態把握を行い治療方針の決定を行う。導き出された治療方針から配穴、刺鍼を行う。 |
| 到達目標 | 各症例について病態把握し、治療方針の決定及び選穴できる。 |
| 成績評価 | 試験の結果を主に、出席状況、授業態度を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 東洋医学概論、経絡経穴概論、東洋医学臨床論、はりきゅう理論 |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 はり師・きゅう師として7年の実務経験あり。 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|------|
| 科目名 | はりきゅう実技Ⅱ | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 加納 舞 |
| 単位数 | 3単位 | 履修学年 | 2学年 | 履修学期 | 前・後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 運動器・神経疾患の病態把握，検査法，治療法について習熟し，臨床現場で応用できる技術の習得を目指す。 |
| 授業内容 | 運動器・神経疾患の病態把握，検査法，治療法を学生同士で施術者・患者とに担当分けし，実技を実施する。 |
| 到達目標 | 運動器・神経疾患の病態理解，検査法，病態把握，治療の実技が総合的に行える。 |
| 成績評価 | 中間・期末試験の結果を主に，出席状況，授業態度，課題を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 適宜プリントを配布する。 |
| 備考 | ※評価についての注記，必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 はり師・きゅう師として7年の実務経験あり。 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|-------|
| 科目名 | はりきゅう実技Ⅲ | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 佐々木香奈 |
| 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 3学年 | 履修学期 | 前期 後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 鍼灸の技術をもって各疾患の治療方針、治療方法を学び、治療ができるようになる。 認定実技審査に合格できる力をつける。 |
| 授業内容 | 模擬カルテや症例を元に証を立て鍼灸の技術を応用し各種の治療を行なう。 |
| 到達目標 | 各症例より自分なりに証を立て治療方針を考え鍼灸治療ができる。 |
| 成績評価 | 定期試験、認定実技審査の成績を評価する。 |
| 教科書 教材 | 経絡経穴概論、東洋医学概論、整形疾患の教科書 作成したプリント |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 はり師・きゅう師として23年の実務経験あり。 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|---------------------|------|------|------|------|
| 科目名 | 臨床実習前施術実技 | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 設楽雄介 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 2学年 | 履修学期 | 前期 |
| 授業方法 | 講義 ・ <u>実技</u> ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 授業目的 | 臨床で使用する診察方法を身につける。 カルテ記入方法を身につける。 |
| 授業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・フィジカルアセスメント概論 ・バイタルサイン、全身観察 ・聴診、触診、打診、触覚検査、反射、徒手筋力検査、ROM測定 ・感覚検査、神経系アセスメント ・東洋医学的アセスメント ・まとめ |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 各診察技術の意義を理解する。 2. 各診察技術を習得し、実施できるようにする。 3. 患者説明を行えるようにする。 4. カルテに記入できるようにする。 |
| 成績評価 | <p>実技試験を行う。</p> <p>レポート（日誌）を決められた期日内に提出、出席状況、授業態度を加味し評価する。</p> |
| 教科書 教材 | 配付資料、教科書「はりきゅう実技」（医道の日本社）、 |
| 備考 | <p>※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項</p> <p>評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p> |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 <u>有</u> ・ 無 |
| | <p>【内容】</p> <p>はり師・きゅう師として14年の実務経験あり。</p> |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|-------|
| 科目名 | 臨床実習 I | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 設楽 雄介 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 1学年 | 履修学期 | 前・後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | <p>①一般患者に対する鍼灸施術見学実習を行い、臨床の雰囲気をつかむ。</p> <p>②体表解剖と筋骨指標を学ぶと共に、視診・触診・取穴の基礎技術修得をめざす。</p> <p>③各教員の得意分野施術を見学。鍼灸施術の多種多様な可能性を体験し、将来の自己進路選択に役立てることができる。</p> |
| 授業内容 | <p>①附属臨床実習施設での一般患者施術見学は1班3～4名編成で実施する。</p> <p>②主要な骨指標、体表から確認できる主要な筋を中心とした体表解剖、触診、重要指標描出を行う。一部、骨度法による取穴デモを実施し、その重要性を確認する。これを学生同士ペアで練習する。</p> <p>③現代医学的鍼灸（トリガーポイント、スポーツ鍼灸）、美容鍼、中医学鍼灸、古典的鍼灸等の施術方法を見学。それぞれの特徴、概略を学ぶ。</p> |
| 到達目標 | <p>①一般患者施術を通して臨床の雰囲気をつかみ、将来の自己施術像の基礎を作ることができる。</p> <p>②主要な骨筋を中心とした体表解剖、触診、重要指標描出ができ、骨度法による取穴の基礎を習得することができる。</p> <p>③多様な鍼灸施術を知悉し、将来の自己進路選択に役立てることができる。</p> |
| 成績評価 | 授業レポートの提出、授業態度等を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | はりきゅう実技、経絡経穴概論、解剖学、臨床医学総論、リハビリテーション医学 |
| 備考 | <p>※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項</p> <p>評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p> |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | <p>【内容】</p> <p>はり師・きゅう師として14年の実務経験あり。</p> |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|------|
| 科目名 | 臨床実習Ⅱ | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 加納 舞 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 2学年 | 履修学期 | 後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | <p>良好な患者－施術者関係を構築するために必要なコミュニケーション能力を身につける。医療面接に関する基本的な知識・技術・態度を身につけ、豊かな臨床能力を育成することを目標とする。</p> <p>臨床におけるリスク管理、接遇、カルテ管理、病態把握、治療方針の立案と効果測定が行えることを目的とする。</p> |
| 授業内容 | <p>医療面接概論およびロールプレイングによる医療面接。</p> <p>カルテの意義と記入方法、効果測定の方法。</p> <p>症例をもとに、治療の立案を行う。</p> |
| 到達目標 | <p>患者心理を理解しながら、患者に対して適切な態度で接することができ、必要事項のアセスメントおよび病態把握、治療方針の立案、効果測定のカルテ記入を症例を通して行うことができる。</p> |
| 成績評価 | <p>出席状況、授業および実習参加態度、授業レポート、ディスカッション・カンファレンスへの参加姿勢から総合的に判断する。</p> |
| 教科書 教材 | <p>東洋医学臨床論（医道の日本社）。適宜プリントを配布する。</p> |
| 備考 | <p>※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項</p> <p>評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p> |
| 実務経験 | <p>【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無</p> |
| | <p>【内容】</p> <p>はり師・きゅう師として7年の実務経験あり。</p> |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|---------------------|------|------|------|--------------|
| 科目名 | 臨床実習Ⅲ | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 加納 舞 / 設楽 雄介 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 2学年 | 履修学期 | 前期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | | |
|-------|--|---|
| 授業目的 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護福祉施設の見学を通して、介護サービスの実際を理解する。 ・ スポーツ現場で鍼灸師の選手対応を見学し有資格者トレーナー活動を理解する。 ・ 介護福祉及びスポーツの現場で、鍼灸師としてどんな対応をすべきか考えられる。 | |
| 授業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内学習では普通教室，実技室，臨床実習施設を使用する。 ・ 事前に介護福祉入居利用者，スポーツ選手の特性や心理，対応方法を学習する。 ・ 各施設まで出向き実地の見学実習を行なう。 | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護福祉施設の見学を通して、介護サービスの実際を理解する。 ・ スポーツ現場で鍼灸師の選手対応を見学し、有資格者トレーナー活動を理解する。 ・ 介護福祉及びスポーツの現場で、鍼灸師としての対応について考えることができる。 | |
| 成績評価 | 出席状況，授業および実習参加態度，授業レポート，ディスカッション・カンファレンスへの参加姿勢から総合的に判断する。 | |
| 教科書教材 | <p>○福祉実習：実習の手引き（2022年度版）</p> <p>○スポーツ実習：実習の手引き（2022年度版）</p> <p>教科書：解剖学，リハビリテーション医学，臨床医学総論，臨床医学各論，経絡経穴概論，東洋医学概論，東洋医学臨床論 を参考とし、ほか適宜プリントを配布する。</p> | |
| 備考 | <p>※評価についての注記，必要な予習等についての特記事項</p> <p>評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p> | |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 | 有 ・ 無 |
| | 【内容】 | <p>加納 舞・・・はり師・きゅう師として7年の実務経験あり。</p> <p>設楽 雄介・・・はり師・きゅう師として14年の実務経験あり。</p> |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|------|
| 科目名 | 臨床実習Ⅳ | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 土屋幸久 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 3学年 | 履修学期 | 前期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | <ul style="list-style-type: none"> ・より臨床現場に適した考え方行動ができる。 ・症例に対して自分で考え、治療方針を導くことができる。 ・現代医学的な病態把握、東洋医学的な病態把握ができる。 |
| 授業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・医療面接、診断・鑑別（東洋医学的・現代医学的） ・診療録の作成、症例報告 ・附属鍼灸院での患者対応、業務補助、治療見学 ・外部臨床実習施設での研修 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・医療面接から診断、鑑別し治療方針の確定ができる。 ・診療録の作成ができる。 |
| 成績評価 | 提出物、出席状況、授業態度を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 臨床医学総論、臨床医学各論、東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論 |
| 備考 | <p>※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項</p> <p>評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p> |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | <p>【内容】</p> <p>はり師・きゅう師として7年の実務経験あり。</p> |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|------|
| 科目名 | 特別講義 I | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 加納 舞 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 3学年 | 履修学期 | 前期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 1・2年次で学習した臨床医学各論の内容を復習し、国家試験問題に備えられることを目的とする。 |
| 授業内容 | 呼吸器疾患，循環器疾患，泌尿器疾患，神経疾患について，講義形式で実施し，教科書を補足するプリントを作成して配付する。 適宜，問題演習を行う。 |
| 到達目標 | 疾病の成り立ちおよび機序を理解し，基礎的な問題に取り組むことができる。 主要な疾患について説明することができる。 |
| 成績評価 | 期末試験の結果を主に，出席状況，授業態度，課題を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 臨床医学各論（医歯薬出版）．適宜プリントを配布する。 |
| 備考 | ※評価についての注記，必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 はり師・きゅう師として7年の実務経験あり。 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|--------|------|-------|
| 科目名 | 特別講義Ⅱ | 分野 | 専門基礎分野 | 講師名 | 柿坂 昌美 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 3学年 | 履修学期 | 後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 衛生学・公衆衛生学の基礎を再度確認・理解し、国家試験に対応できる知識を身につけ、深める。 |
| 授業内容 | 衛生学・公衆衛生学、総復習 |
| 到達目標 | 各章の重要ポイントを国家試験に対応した演習問題を解くことができる。 |
| 成績評価 | 定期試験 |
| 教科書 教材 | 衛生学・公衆衛生学（第2版）、まとめプリント、演習問題プリント |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 はり師・きゅう師として22年の実務経験あり。 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|------|
| 科目名 | 特別講義Ⅲ | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 加納 舞 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 3学年 | 履修学期 | 前期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 疾病の概念を明らかにするため、疾病の原因と細胞の変化など病理の基礎を理解することを目的とする。病理学各論については主要な疾患の基礎的知識を習得することを目的とする。 |
| 授業内容 | 病理学の基礎、病因、循環障害、退行性変性、進行性病変、炎症、腫瘍、免疫・アレルギー、先天性異常について、講義形式で実施し、教科書を補足するプリントを作成して配付する。適宜、問題演習を行う。 |
| 到達目標 | 疾病の成り立ちおよび機序を理解し、説明することができる。 主要な疾患について説明することができる。 |
| 成績評価 | 中間・期末試験の結果を主に、出席状況、授業態度、課題を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 病理学（医歯薬出版）。適宜プリントを配布する。 |
| 備考 | ※評価についての注記，必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 はり師・きゅう師として7年の実務経験あり。 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|-------|
| 科目名 | 総合医学特論 I | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 佐々木香奈 |
| 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 3学年 | 履修学期 | 前期 後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 授業目的 | 臨床医学総論、リハビリテーション医学、臨床医学各論、生理学を総復習し、さらに関連する科目を強化し、国家試験や臨床の場で対応できる力を身に付ける。 |
| 授業内容 | 各章ごとに①前週の内容から小テスト ②始めの四択問題 ③まとめプリント ④復習・確認・暗記時間 ⑤確認テスト |
| 到達目標 | 最後の確認テストでその日の内容を完璧に覚えてもらう。 その繰り返しを行ない関連付けてトータル的に問題が解けるようにする。 |
| 成績評価 | 定期試験の成績を最重視し評価する。 |
| 教科書 教材 | 臨床医学総論、リハビリテーション医学、臨床医学各論、生理学、作成したプリント |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A (80点以上)、B (79～70点)、C (60～69点)、D (59点以下) の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 はり師・きゅう師として23年の実務経験あり。 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|-------|
| 科目名 | 総合医学特論Ⅱ | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 佐々木香奈 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 3学年 | 履修学期 | 前期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 臨床医学総論、リハビリテーション医学、臨床医学各論、生理学を総復習し、さらに関連する科目を強化し、国家試験や臨床の場で対応できる力を身に付ける。 |
| 授業内容 | 各章ごとに①前週の内容から小テスト ②始めの四択問題 ③まとめプリント ④復習・確認・暗記時間 ⑤確認テスト |
| 到達目標 | 最後の確認テストでその日の内容を完璧に覚えてもらう。 その繰り返しを行ない関連付けてトータル的に問題が解けるようにする。 |
| 成績評価 | 定期試験の成績を最重視し評価する。 |
| 教科書 教材 | 臨床医学総論、リハビリテーション医学、臨床医学各論、生理学、作成したプリント |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 はり師・きゅう師として23年の実務経験あり。 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|-------|
| 科目名 | 総合医学特論Ⅲ | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 佐々木香奈 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 3学年 | 履修学期 | 後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | 臨床医学総論、リハビリテーション医学、臨床医学各論、生理学を総復習し、さらに関連する科目を強化し、国家試験や臨床の場で対応できる力を身に付ける。 |
| 授業内容 | 各章ごとに①前週の内容から小テスト ②始めの四択問題 ③まとめプリント ④復習・確認・暗記時間 ⑤確認テスト |
| 到達目標 | 最後の確認テストでその日の内容を完璧に覚えてもらう。 その繰り返しを行ない関連付けてトータル的に問題が解けるようにする。 |
| 成績評価 | 定期試験の成績を最重視し評価する。 |
| 教科書 教材 | 臨床医学総論、リハビリテーション医学、臨床医学各論、生理学、作成したプリント |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 はり師・きゅう師として23年の実務経験あり。 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|-------|
| 科目名 | 東洋医学特論 I | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 土屋幸久 |
| 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 3 学年 | 履修学期 | 前期・後期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | はり師・きゅう師の国家試験合格に向け、東洋医学概論の総復習を行う。 臨床の場において東洋医学的に病態を把握し、施術を行うための基盤を確立する。 |
| 授業内容 | 国家試験出題基準（2020年版）の内容をもとに、国家試験合格に必要な基礎の総復習を行う。 四診による病態把握から証を立て、治療に至るまでの考え方を学ぶ。 |
| 到達目標 | 症例から病態把握、証立て、治療の内容を説明できる。 四診について説明ができる。 東洋医学的な病因から様々な弁証に分別できる。 証から適した治療穴を提示し選穴理由を説明できる。 |
| 成績評価 | 試験の結果を主に、出席状況、授業態度を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論 |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 はり師・きゅう師として7年の実務経験あり。 |

令和4年度 シラバス【鍼灸学科】

盛岡看護医療大学校

| | | | | | |
|------|--------------|------|------|------|------|
| 科目名 | 東洋医学特論Ⅱ | 分野 | 専門分野 | 講師名 | 郡山秀一 |
| 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 3学年 | 履修学期 | 前期 |
| 授業方法 | 講義 ・ 実技 ・ 実習 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 授業目的 | はり師・きゅう師の資格取得に向けて、2年間で学んだ知識の内容を東洋医学概論の弁証論治を中心に整理し、定着させる。 |
| 授業内容 | 国家試験で問われる内容を中心に、弁証論治の復習を行い、診断と治療のための基礎知識を確認する。 |
| 到達目標 | 1. 患者の病態把握・治療方針決定において必要となる基礎知識は何なのかがわかる。 2. 東洋医学概論で履修した内容の知識の定着を図る。 |
| 成績評価 | 客観試験（筆記試験）の結果を主に、出席状況、授業態度を加味して評価する。 |
| 教科書 教材 | 配付資料、教科書「新版 東洋医学概論」「東洋医学概論」「新版 経絡経穴概論」（医道の日本社） |
| 備考 | ※評価についての注記、必要な予習等についての特記事項 評価について：期末試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（60～69点）、D（59点以下）の4段階で評価する。 |
| 実務経験 | 【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 |
| | 【内容】 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師として9年の実務経験あり。 |